



令和 2 年 1 月 17 日
海 上 保 安 庁

オリパラに向け官民の連携対応能力の向上を目指す ～旅客船を用いたテロ対応訓練を初めて実施～

1月24日、開会式(7月24日)まで半年に迫ったオリパラを見据え、旅客船でのテロを想定し、テロ対応、連携対応能力の向上を目的とした実動訓練を実施します。

本訓練は海事・港湾業界団体と関係機関が参画する海上・臨海部テロ対策協議会により実施する官民一体となった取組として実施するもので、合同訓練は初めてになります。

1. 実施日時等

実施日時：令和2年1月24日(金) 午前9時30分～午前11時30分

実施場所：東京都港区海岸1丁目16番

竹芝棧橋係留中の旅客船「橘丸」

2. 訓練概要

橘丸船内でテロが発生したことを想定し、

- ・ 関係機関への連絡・船内検索
- ・ 乗客の避難誘導
- ・ 犯人制圧
- ・ 負傷者救護搬送

等をシナリオに沿って実施予定。 ※詳細は別紙1参照

3. 経緯

海上保安庁では、海上・臨海部のテロ対策に関し官民一体となって検討するため、業界団体が参画するスタディ・グループを平成28年9月から開催し、国際テロ情勢やテロ対策の現状などの知見を共有しつつ、官民連携のあり方について検討しました。

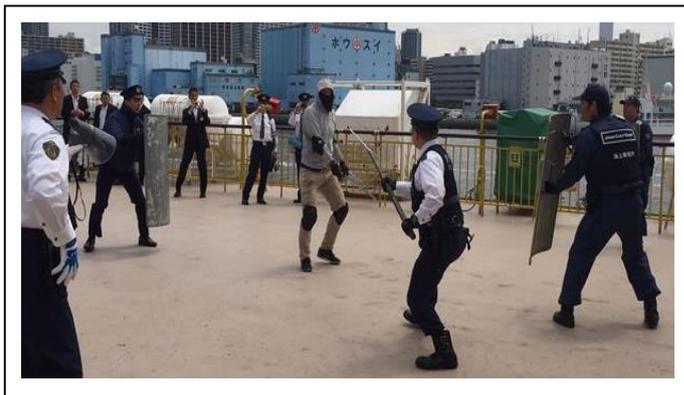
平成30年度までに、新たに構成員を拡大、スタディ・グループを「海上・臨海部テロ対策協議会」に発展改組し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を念頭に、具体的な危険を想定した官民の対応について議論を深め、その成果として「海上・臨海部テロ対策ベストプラクティス集」を作

成し、約 5,000 の海事港湾関係企業等に配布しました。

今年度の「海上・臨海部テロ対策協議会」は、これまでに 2 回開催され、「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会一年前訓練視察及び同大会開催時のテロ対策検討」、「大阪 G20 開催時の各団体からのテロ対策ベストプラクティスの共有」、「海上・臨海部テロ対策ベストプラクティスの更新にかかる検討」について議論を実施しました。

今回は、これまでの検討議論をふまえ、旅客船でのテロを想定した実動訓練を実施します。

○訓練の様子（イメージ）



4. 海上・臨海部テロ対策協議会構成員

(1) 座長

日本大学危機管理学部教授 河本 志朗（カワモト シロウ）氏

(2) 業界団体等（五十音順：13 団体）

（一社）日本外航客船協会、（一社）日本港運協会、（一社）日本港湾タグ事業協会、（一社）日本船主協会、（一社）日本長距離フェリー協会、（一社）日本旅客船協会、外航船舶代理店業協会、外国船舶協会、（公財）海上保安協会、（公社）日本港湾協会、日本船舶代理店協会、日本内航海運組合総連合会、日本水先人会連合会

(3) 関係省庁

国土交通省：大臣官房、港湾局、海事局、海上保安庁（事務局）

(4) オブザーバー

警察庁、財務省関税局、法務省入国管理局

テロ対策協議会によるテロ対策実動訓練について

【訓練について】

1 訓練シナリオ

- (1) シーン1 (通報、巡視検索)
 - ・テロリストから「船内でテロをおこす」とのテロ予告が入る
 - ・東海汽船関係者による関係機関への連絡
 - ・警乗中の海上保安官及び「橘丸」乗組員による船内検索
- (2) シーン2 (乗客の誘導、不審者の発見、不審物発火、初期消火)
 - ・「橘丸」乗組員による乗客避難誘導
 - ・テロリストAが船内で放火、「橘丸」乗組員による火災消火、消火にあたった乗組員が負傷
- (3) シーン3 (不審者の制圧)
 - ・逃走するテロリストを海上保安官及び乗組員が制圧
 - ・避難した乗客に紛れていたテロリストBが暴れだし、同テロリストを警察及び海上保安官が制圧
 - ・東京港埠頭株式会社による乗客避難誘導 (岸壁から客船ターミナル)
- (4) シーン4 (負傷者の救護)
 - ・消防庁による負傷者救護搬送

2 訓練タイムスケジュール

シナリオ	時間
シーン1 (通報、巡視検索)	10時00分～10時20分
シーン2 (乗客の誘導、不審者の発見、 不審物発火、初期消火)	10時25分～10時45分
シーン3 (不審者の制圧)	10時45分～11時8分
シーン4 (負傷者の救護)	11時10分～11時20分
海上・臨海部テロ対策協議会 座長に対するぶらさがり取材	11時20分～11時30分

3 訓練参加機関（調整中）

- (1) 東海汽船株式会社（「橘丸」乗組員ほか）
- (2) 東京港埠頭株式会社
- (3) 日本大学危機管理学部
- (4) 警視庁
- (5) 東京消防庁
- (6) 東京都港湾局
- (7) 東京海上保安部

図一 1

